

[学会情報]

2017年 第68回 ASEV National Conference 参加報告  
および University of California Davis 校, ASEV 本部見学記

井上 絵梨  
山梨大学ワイン科学研究センター

Reports on 68<sup>th</sup> ASEV National Conference  
Reports on Visit of University of California, Davis and ASEV Headquarters

Eri INOUE  
The Institute of Enology and Viticulture, University of Yamanashi

2017年の第68回 ASEV National Conference は2017年6月26日から29日にかけて、ワシントン州ベルビューの Hyatt Regency, Bellevue にて開催された。



図1 会場となったベルビュー市街中心地



図3 New Understandings in Wine Oxidation Chemistry Symposium  
開催直前の会場の様子 (Hyatt Regency, Bellevue 内)



図2 ASEV 大会受付付近 (Hyatt Regency, Bellevue 内)

一般参加者の実質の大会初日である6月27日には、丸一日 New Understandings in Wine Oxidation Chemistry Symposium (ワインの酸化化学の新しい見解についてのシンポジウム) に参加した。Andrew Waterhouse 博士らによる企画で、ブドウ収穫時における酸化や発酵中におこる酸化に関する報告、さらに MOx のワイン醸造への使用の報告など計 12 題が発表された。これまでにワインの酸化については多くの研究がなされており、今回のシンポジウムで包括的な知識および最新の研究報告を得ることができ、非常に有意義なシンポジウムであった。

翌日 28 日の午前中は Enology と Viticulture の分野に分かれての口頭発表だった。Enology は 5 題, Viticulture でも 5 題の発表が行われた。今年は Enology ではアロマに関する研究報告が多かった印象である。その後, Larry Bettiga 氏による ASEV Extension Distinction Award Presentation の講演や, Alan Lakso 博士による 2017 Honorary Research Lecture の講演などが行われた。

夕方からは, 一部のポスター発表者 (学生) によるショートプレゼンテーション, Student Flash Talks を拝聴した。全部で 27 名の学生が 3 分という短い制限時間内で自身の研究内容を発表した。



図 4 Student Flash Talks 開始直前の会場の様子 (Hyatt Regency, Bellevue 内)

夜は, ポスター発表と同時に Washington Regional Wine Reception が開催された。筆者自身もポスター発表を行い, 様々な研究者や学生の方から質問やアドバイスをいただくことができ, 今後の研究活動へのモチベーションが高まる良い機会であった。



図 5 ポスター発表および Washington Regional Wine Reception 会場の様子

ここからは学会開催前に訪れたカリフォルニア州立大学デイヴィス校と, 新しく移転した ASEV 本部事務局の見学報告である。

カリフォルニア州立大学デイヴィス校では, 初日は Roger Boulton 教授が, 二日目は Hildegard Heymann 教授がキャンパス内を案内してくださった。Teaching and Research Winery という試験的醸造設備がそろそろ施設では, センサー技術を利用した発酵槽 (ROGERS FERMENTOR) や, 圃場内気象センサーデータの共有タッチパネルなどの説明を受けた。また施設内にはセラもあり, 貴重なワインを多数見せていただいた。



図 6 University of California, Davis キャンパス内



図 7 Teaching and Research Wine 施設内



図8 Roger Boulton 教授による ROGERS FERMENTOR の説明



図11 貴重なワインがそろそろセラー



図9 University of California, Davis 圃場

二日目は、主に官能評価学に関する施設を Hildegard Heymann 教授に案内していただいた。調理設備のある実験室、赤色ライトがある官能評価室などを見学した。夏休み中ではあったが、実験室では大学院生が何名か実験を行っていた。



図12 Hildegard Heymann 教授（左）と実験中の学生（右）



図10 圃場内気象センサーデータの共有タッチパネル



図13 調理設備の揃う実験室



図 14 赤色ライトの点灯する官能評価室



図 17 Dan Howard 氏と談笑する奥田 徹 教授 (山梨大)



図 15 パーティションで区切ることで官能評価も行える講義室

カリフォルニア州立大学デイヴィス校見学後、新しく移転した ASEV 本部事務局を訪れた。そこでは、Executive Director の Dan Howard 氏に案内していただいた。事務局入り口から入ると、まず目に飛び込んできたのが、正面壁に設置されている大きな ASEV のロゴマークである。その後各オフィスをまわり、事務局の業務内容などについて説明していただいた。オフィスの一角には、ASEV の歴代 President のポートレート写真が並んでおり壮観だった。



図 18 ASEV 歴代 President のポートレート写真がずらっと並ぶ

今回訪れたワシントン州ベルビューをはじめ、カリフォルニア州立大学デイヴィス校とともに自身にとって初めての訪問見学だった。ASEV National Conference では最新の研究報告を勉強できたことは勿論のこと、カリフォルニア州立大学デイヴィス校見学では、規模の大きさに唯々圧倒された。今回の貴重な経験を今後の研究活動に生かし、精進していきたい。

以上



図 16 入口正面壁の大きな ASEV ロゴマーク